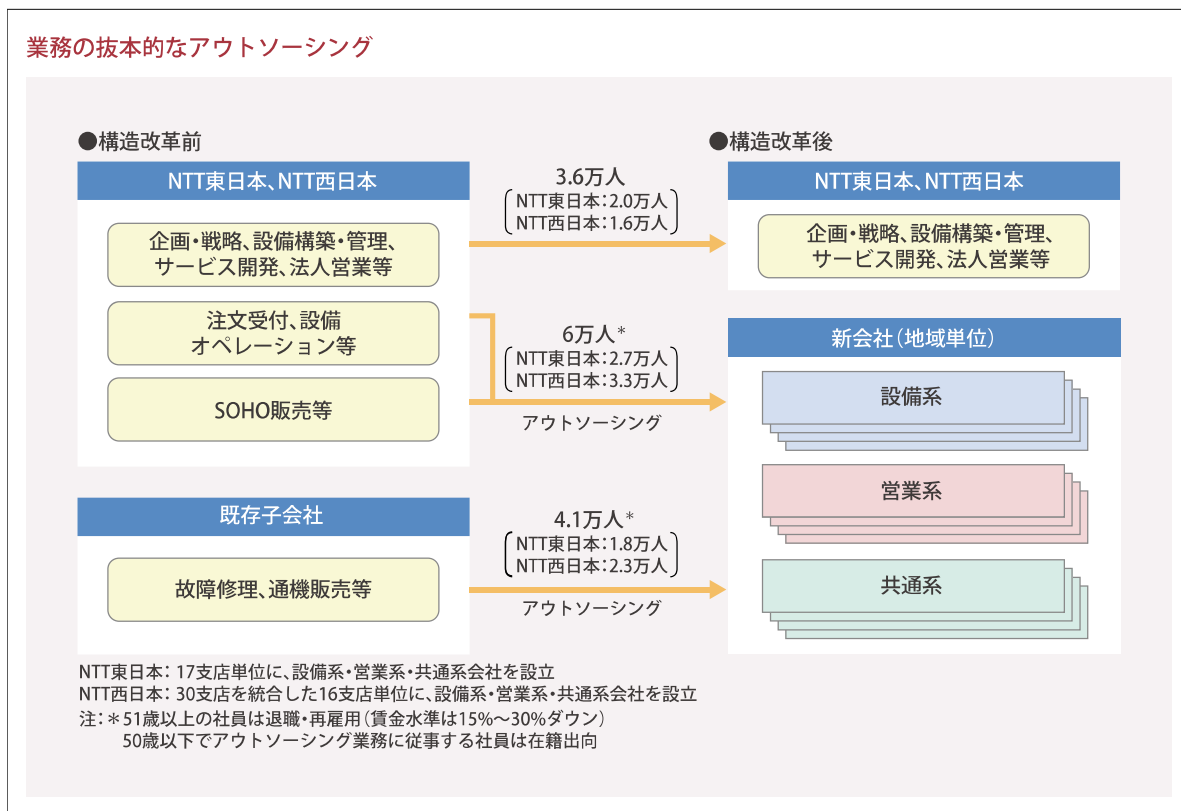


図表4-1-12 ▶NTT東西の新たな経営改善施策



出所：NTT『NTTグループ社史 [1995-2005]』（2006年3月）

Dimension Data、NTTデータなどを再編して、世界中に展開するグループ事業を一体化した。

②上位レイヤーサービス

2000年代初頭からブロードバンドやインターネットが急速に普及すると、NTTグループは通信インフラだけでなく、インフラを活用するISP事業や映像配信事業、ポータルサイト事業などの「上位レイヤー」にも力を注ぎ始めた。こうした中、NTTは、2001年6月に、NTTブロードバンドイニシアティブ(NTT-BB)を設立し、セキュアコントロール、課金・決済等のプラットフォームサービス、ブロードバンドコンテンツがシームレスに流通するCDN(コンテンツ・デリバリーネットワーク)サービス、動画チャット等を提供した。さらに、2003年12月にはNTTレゾナントを設立し、従来のポータルにエージェント機能や映像検索機能などを充実させたブロードバンドポータルを開発するなど、映像コミュニケーションやプラットフォーム機能を有機的に結びつけた新たなサービスモデルの開発を積極的に進めた。また、既に設立していたNTT-XとNTT-BBの統合も実施した。

さらに、2006年8月には、NTTレゾナントや、インターネット接続サービス、TV向け映像配信サービスなどを提供している「ぶらなネットワークス」をNTTコミュニケーションズの子会社とし、上位レイヤーサービスの提供体制

の見直しを実施した。

これらの取り組みにより、NTTコミュニケーションズの下で、国内最大の800万を超えるISP顧客基盤を一体的に運営できる体制が整った。また、ポータルサービス「goo」の1カ月当たりのブラウザ数も約3,600万(2007年3月)と順調に拡大していたため、NTTコミュニケーションズはISP顧客基盤と連携した新たなサービス展開を本格化させ、事業の効率化と、上位レイヤーサービス間のシナジーを追求したビジネスを展開した。

③法人サービス

2006年8月、法人の顧客へのワンストップサービスの充実とグループ内リソースの有効活用による事業の効率化を図るため、グループ内のお客さまアカウント体制の見直しを行った。

具体的には、都市銀行、総合商社、中央官庁などの全国・グローバル型のお客さまはNTTコミュニケーションズが担当し、地方自治体や地方銀行などのお客さまはNTT東西が担当することとして見直しを行うことにより、ネットワーク/情報システムなどのトータルソリューションの提供力の強化や顧客サービスの向上を図ることとした。

④事業領域の拡大

「NTTグループ3ヵ年計画(2002～2004年度)」などを